

越冬キャベツ... I

担当者 技能研究員 藤井 翔馬

試験課題名	品種系統選定試験
目的	11月どり品種系統の栽培特性と貯蔵性を比較検討し普及に資する
期待される成果	優良品種の導入により、生産の安定と経済性の向上を図る
連携機関	上川農業改良普及センター士別支所 JA北ひびき和寒基幹支所 和寒町蔬菜組合連合会キャベツ部会

1 供試品種・資材

品種

※ 冬 駒 (タキイ) 湖 月 S P (タキイ) YRしぶき2号 (石井育種場)
四 季 穫 (タキイ) 94175 (雪印)

※基準品種

2 耕種概要

土 壤 ~ 灰色低地土(埴壤土)

前 作 ~ ばれいしょ

播 種 日 ~ 6月17日 定 植 日 ~ 7月16日 収 穫 日 ~ 11月7日

栽 植 密 度 ~ 畦幅60cm×株間45cm 3,703株/10a当たり

試験区面積 ~ 0.18a (3.6m x 4.95m) 各区10株を収穫し調査 2反復

3 土壌診断結果と施肥量

(1) 土壌診断結果

(mg/100g)

pH	EC	P ₂ O ₅	K ₂ O	MgO	CaO	熱水抽出N
6.04	0.05	54.7	51.8	50.4	539.5	5.5

(2) 土改資材と堆肥 (kg/10a)

堆 肥 ~ 1,000kg

(3) 施肥内容 (成分量/%)

基 肥 ~ BBS611号 (21.0 - 11.0 - 11.0 - 2.0) 7月12日 全層施肥
分 肥 ~ 硫酸アンモニア (21.0 - 0 - 0) 8月16日 条間施肥
分 肥 ~ 粒状過磷酸石灰 (0 - 18.0 - 0) 8月16日 条間施肥
分 肥 ~ 硫酸加里 (0 - 0 - 50.0) 8月16日 条間施肥

(4) 肥料の要素量

(kg/10a)

			N	P	K	Mg
基 肥	BBS611号	110.0kg	17.6	11.6	11.6	3.4
分 肥	硫酸アンモニア	20.0kg	4.2	-	-	-
分 肥	粒状過磷酸石灰	27.7kg	-	5.0	-	-
分 肥	硫酸加里	8.0kg	-	-	4.0	-
合 計			21.8	16.6	15.6	3.4

4 調査項目

生 育 調 査 ~ 播種日・発芽期・発芽率・定植日・定植時の苗質・結球期

収 量 調 査 ~ 総重量・調整重・調整率・調整収量・慣行比・規格内割合・障害

特 性 調 査 ~ しまり・球径・球高・緑色・球形指数・硬さ・甘さ・総合評価・糖度 (Brix)

枯 れ 葉 調 査 ~ 収穫時・1月中旬・2月中旬

5 生育調査

項目		品種	冬駒	湖月SP	YRLぶき2号	四季穫	94175
播	種	日	6月17日				
発	芽	期	6月23日				
発	芽	率 (%)	98.4	99.2	99.2	98.4	99.2
定	植	日	7月16日				
定植時の苗質	葉数 (枚)		3.0	3.0	3.0	2.9	3.0
	葉長 (cm)		4.3	5.1	4.3	5.2	5.0
結	球	期	8月20日	8月19日	8月18日	8月18日	8月25日

6 収量調査

項目		品種	冬駒	湖月SP	YRLぶき2号	四季穫	94175
総	重	量 (kg/球)	2.65	2.98	3.38	2.45	2.71
調	整	重 (kg/球)	1.98	2.48	2.77	1.96	2.10
調	整	率 (%)	75%	83%	82%	80%	77%
調	整	収量 (kg/10a)	7,332	9,183	10,257	7,258	7,776
慣	行	比 (%)	100%	125%	140%	99%	106%
規格別割合 (%)	3 玉		0	0	0	0	0
	4 玉		0	40	90	0	5
	5 玉		45	55	10	40	70
	6 玉		50	5	0	50	15
	7 玉 ~ 8 玉		5	0	0	10	10
	9 玉 ~ 10 玉		0	0	0	0	0
障 害 (球)	病 害 虫		3	1	1	2	2
	障 害 球		0	0	0	0	0

※規格 3玉 3.4kg以上 4玉 2.5~3.3kg 5玉 2.0~2.4kg 6玉 1.7~1.9kg 7~8玉 1.3~1.6kg 9~10玉 0.9~1.2kg

※病害虫(無0~有3)・障害球(良0~不良3)

7 特性調査

項目		品種	冬駒	湖月SP	YRLぶき2号	四季穫	94175
外 観	緑色 (良5~不良1)		3.0	2.0	3.0	3.0	2.5
	しまり (良5~不良1)		3.0	4.0	3.0	2.5	2.0
	球 径 (cm)		20.6	21.8	23.0	20.5	20.7
	球 高 (cm)		13.5	14.4	14.5	13.8	15.3
	球 形 指 数 (%)		66%	66%	63%	67%	74%
食 味	硬さ (良5~不良1)		3.0	3.0	2.5	2.7	2.8
	甘さ (良5~不良1)		3.0	2.9	3.6	3.3	3.5
	総合評価 (良5~不良1)		3.0	3.1	2.6	2.8	2.8
11月13日 調 査	枯れ葉		3	1	3	2	2
	糖度(Brix)		7.7	6.4	7.4	7.1	6.3
1月8日 調 査	枯れ葉		3	0	3	1	2
	糖度(Brix)		7.6	5.6	5.7	5.6	6.0
2月14日 調 査	枯れ葉		2	0	3	1	2
	糖度(Brix)		5.9	5.0	4.6	6.8	5.7

8 病害虫防除履歴

殺虫剤			殺菌剤		
7月12日	ダイアジノン粒剤5	4kg			
7月16日	プレバソンフロアブル5	100倍	7月16日	オラクル顆粒水和剤	200倍
8月8日	アディオン乳剤	2,000倍			
8月21日	アフーム乳剤	1,000倍	8月21日	ファンタジスタ顆粒水和剤	2,000倍
9月3日	プレバソンフロアブル5	2,000倍	9月3日	Zボルドー	500倍
9月18日	ディアナSC	2,500倍	9月18日	ファンタジスタ顆粒水和剤	2,000倍
9月26日	ペイオフME液剤	1,000倍			
10月9日	アディオン乳剤	2,000倍	10月9日	スミレックス水和剤	2,000倍

9 試験結果概要

(1) 生育経過

6月17日、128穴セル成型トレーにプラグエースを充填し、播種を行った。6月23日に全品種が発芽期となった。発芽率は、湖月SPとYRしぶき2号、94175が99.2%で最も高く、冬駒と四季穫は98.4%で全品種良好であった。

定植は7月19日に行った。定植時の苗質調査では、葉数がおよそ3枚、葉長が4.3cm～5.2cmとなった。定植直後は干ばつに見舞われ、数回の灌水を行った。結球期はYRしぶき2号が8月18日で最も早く、94175が8月25日で最も遅くなった。裂玉や病害はほ

(2) 収量調査結果

収穫は11月7日に行った。裂球は湖月SPでわずかに見られた程度であった。調整収量は、基準品種の冬駒が7,332kg/10aとなった。湖月SPは9,183kg/10aであった。最も多かったものはYRしぶき2号の10,257kg/10aであった。少なかったものは四季穫の7250kg/10aであったが、冬駒とほぼ同じ収量であった。

規格割合は、全品種で大玉傾向にあり、湖月SPは4～5玉が中心となった。YRしぶき2号は4玉が90%を占めた。

防除の遅れで食害が多くなった。特に冬駒と四季穫は食害が多く見受けられた。

(3) 特性調査結果

外観の緑色は、四季穫とYRしぶき2号が3.0で冬駒と同程度であり、94175は2.5で湖月SPは2.0であった。

しまりは湖月SPが4.0で最も良く、続いて四季穫が2.5であり、94175は2.0で冬駒を下回った。

球形指数は、94175が74%で最も高く、腰高となった。YRしぶき2号は、最も低く、63%で扁平となった。

11月13日に収穫直後の食味調査を行った。冬駒の糖度は7.7%で最も高かったが、食味試験にはそれほど違いが現れず、他の品種は冬駒と同程度の結果となった。

収穫直後に枯れ葉の発生具合を各品種20株ずつ調査した。冬駒とYRしぶき2号はほとんどの株で枯れ葉が見られた。四季穫と94175は調査株の約半数に枯れ葉が見られた。湖月SPは1株のみ枯れ葉を確認した。

(4) 考察

10a当たりの調整収量は、昨年度と比較すると各品種1割ほど増加していた。特に湖月SPは大玉傾向になり、規格割合では4玉～5玉で90%以上を占めていた。

枯れ葉の発生が多い原因としては、8月中旬から9月中旬にかけて雨が降り続き、圃場が常に湿っていた状態で根痛みが発生したことによるものと考えられる。

収量性は全ての品種が冬駒と同程度か上回っており、特にYRしぶき2号は10トンを超えたが枯れ葉が多く見受けられた。

貯蔵性については、YRしぶき2号は1月調査時点で他の品種よりもやや腐敗が進んでいた。四季穫と94175は湖月SPと同程度の貯蔵性であったが、両品種共に枯れ葉が確認された。

以上の結果から、今年度は冬駒及び湖月SPに並ぶ優良品種といえるものは無いと判断した。来年度も引き続き新たな品種を調査及び検討をしたい。